

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ステーション新屋敷（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R6年1月7日		～ R6年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	R6年2月13日		～ R6年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同一施設内に児発と放デイの事業所があり、移行をスムーズに行うことができる。	児発利用の頃から日々の様子、モニタリング、支援者会議での情報を共有している。	就学先や放デイを検討する段階から情報共有を行う。就学先が決まり次第、利用日や送迎ルート、放デイでの過ごしについて検討を始める。
2	保護者ランチ会や保護者参加の行事を実施し、保護者同士の交流を大切にしている。	児発と放デイの保護者の交流を大切にしている。	保護者交流会や行事を年間計画に沿って計画的に検討・実施し、早めの案内を心がける。普段から保護者との関係性を築き、保護者のニーズを把握する。
3	スタッフ全員が有資格者であり、専門性の高い療育を提供することができる。スタッフ間でもそれぞれの専門領域に関する相談をすることができる。	朝礼時に児の情報共有や検討を行っている。また、それぞれの職種でカンファレンスを行っていたり、勉強会に参加している。	できる限りモニタリング時期に合わせたカンファレンスを実施し、個別支援計画に反映させる。検討事項等を共有し、チームでの取り組みを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用定員に対してスペースが狭い。	その日の利用者の様子（組み合わせ、人数）や、利用者様の成長に伴い、個々の体格・椅子が大きくなり、スペースが狭いと感じる。	その日の利用者様に合わせたスペースの検討、マットに降りる時間と車椅子に乗車する時間の検討をする。日々の整理整頓、物品管理の見直しを実施する。
2	祝日や長期休暇時は児発と放デイの時間が重なり、支援や見守りが手薄になったり、活動が十分に行えなえていない時がある。	管理者以外の職員がほぼ児発と放デイの兼務をしているため、利用が重なる時には職員が足りない状況となる。	社内他事業所からのヘルプ体制を整えていき、必要に応じて社内他事業所との併用を検討していく。また、医療的ケア児への関わりも看護師以外でできることは積極的に介入する。
3	研修や勉強会の時間確保が難しい。	児発と放デイの事業所があり、時間の確保が困難。行事や長期休暇時はさらに時間確保に難しさを感じる。	年間計画に沿って、計画的な実施を心がける。事業所必須研修は、社内他事業所と合同で実施する等、実施方法を検討する。勉強会は職種カンファレンスの時間を確保するようになり、実施できる環境が整いつつある。